



# JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2022

# FINALIST STORIES



- |        |  |
|--------|--|
| 木名瀬 裕  | 株式会社今治・夢スポーツ / ヒューマンディベロップメント グループ長 / [しまなみ野外学校] エディケーションプロデューサー |
| 森 和成   | 株式会社ライジング・フィールド 代表取締役 / 株式会社プロジェクトアドベンチャージャパン 取締役営業統括            |
| 森重 裕二  | 子どもたちにライジャクを！ 代表 / 庵治石細目 松原等石材店 3代目                              |
| 岡本 麻友子 | 森のようちえんウイズ・ナチュラ 代表 / 合同会社 SOULS CEO                              |
| 塚原 俊也  | くりこま高原自然学校 校長 / OWLS (Outdoor Works & Lifestyle) 代表              |
| 星野 諭   | 移動式あそび場全国ネットワーク / つもぎやさん 代表                                      |
| 丸谷 由   | NPO 法人国際自然大学校沖繩校 マネージャー / ネコのわくわく自然教室 代表                         |
| 山崎 清治  | NPO 法人生涯学習サポート兵庫 理事長 / 無人島学校 校長                                  |
| 井上 恵里  | 公益財団法人社会教育協会ひの社会教育センター / ひの自然学校 担当ディレクター                         |

# SOCIAL OUTDOOR

ソーシャルアウトドア



人も自然もいろとりどりで  
すこやかな社会をつくり次世代へ渡したい

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD (JOLA) は  
日本が誇るべき自然環境を通して  
人づくり、地域づくりに活躍してきた  
挑戦者たちをたたえています。

そのリーダーたちの活躍に光を当てることが  
教育と生き方のつながりを編集して「自然に学ぶ人」を育み、  
自然体な暮らしができる  
地域づくりのサポートになると考えています。

そしてこのようなアウトドアのあり方を  
私たちは「ソーシャルアウトドア」と名付けました。

消費するレジャーとしてのアウトドアだけでなく、  
社会をより豊かにする機会として。  
また自然体験やアクティビティだけでなく、  
農林水産業、伝統文化なども含み、  
関係者・当事者だけでなく、  
多様な同志が個人ベースで参画し、  
社会課題をみんなで解決していく。

JOLA は「ソーシャルアウトドア」をハブにして  
地域や世代や業種をつなぐすべてのの方々を応援します。

このBookでは2022年に受賞された方々を紹介します。



広島県の里山で  
博物館活動を通して  
地域の営みと自然を  
将来に残す道を具体的に模索



沖縄県にて自然や人との関わりを通して  
子どもの主体性を育む  
森のようちえんと  
フリースクールを展開



岐阜県の公立専修学校にて  
地域開放型の  
森林環境教育施設の企画運営と  
学生の育成に奮闘

岐阜県の長良川漁師。  
木造和船と伝統漁法を継承し  
川魚の6次産業化と川の文化の  
伝え手として活躍

# あなたの活動を みんなの活動にする SOLAというアプローチ

APPROACH

日本各地のフィールドで活躍している方々を表彰する中で、  
単純な意味での「アウトドア（アクティビティやキャンプなど）」の枠に  
収まり切れない方々が多くいることに気付きました。

伝統文化の継承、地域文化の再評価、  
社会課題解決などに取り組む「アウトドア」。  
人づくりが地域づくりにつながる機会としてのアウトドア。  
学校教育で不足しがちな感性や身体性を  
補完する場としてのアウトドア。

Social = 社会  
Outdoor = 自然  
Local = 地元  
Associate = 仲間

ソーシャルアウトドアを  
押し進める  
4つのキーワード

生き方を学び、ローカルに学び、みんなと学ぶ。  
これこそ私たちが大切にしなければならない価値、  
ソーシャルアウトドアではないか。

それらを押し進めるため、  
「社会」の既存の仕組みを捉え直すために  
「自然」の中での活動や楽しみを通して  
「地元」でがんばる人々と学び合いながら  
「仲間」との絆を深め次世代の人づくりをする  
そんなコミュニティを目指します。

# JOLAのソーシャルアウトドアプラットフォーム

SOCIAL OUTDOOR PLATFORM

JOLAはソーシャルアウトドアを掲げ、アワード×メディア×コミュニティの運営を通じ、教育と生き方のつながりを編集し直すことで、人づくり・地域づくりのサポートをしていきます。

## ソーシャルアウトドアプラットフォーム JOLA

選考委員

アワード

JOLA ルーブリックを起点に  
JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD

ファイナリスト



全国のアウトドアフィールドで指導する指導者およそ23万人を対象にした表彰。未来を創造する力を育み、心身の良質な成長の機会を作る、ソーシャルアウトドアリーダーの顕彰。

運営委員 / 事務局

アンバサダー



各地でソーシャルアウトドアに取り組み、それぞれの課題を持つ多様な仲間と、オフラインやオンラインで集い、互いに助け合い学び合う場。

メディア

取り上げる・つなげる・見出す

SOLA

(Web & フリーペーパー)



ソーシャルアウトドア関連ニュース、アワード受賞者や関係者の記事、SOLA編集部オリジナル記事・動画コンテンツをリトルフリーペーパーやWEBを通じて展開。

パートナー / サポーター

スペシャルアドバイザー

コミュニティ

あなたの課題をみんなの課題に

SOLA CLUB

個人会員 / 法人会員

# スペシャル アドバイザーからの メッセージ

MESSAGE FROM SPECIAL ADVISOR



澁澤 寿一氏

NPO 法人 共存の森  
ネットワーク 理事長

森は絶えず移り変わりながら、その時その時の構成員である、木や草、生き物や微生物…そこに人間も関わりながら、絶えず「調和」する方向に向かいます。熱力学の第2法則とは反対の流れに私たちの心は安らぎ、神の存在や愛を感じ、持続可能な社会を夢見ることができます。それを支えているのは、光合成を通して皆に配られる太陽のエネルギー。今後も50億年はその恩恵が続きます。

この冊子に登場する皆さんは、そんな壮大な時間の流れを紡いでいる方々です。SDGsは環境問題のように思われていますが、実は私たち人間の社会や経済の問題です。私たちの生き方であり、謂わば、心の問題とも言えます。自分のことだけでなく、お金だけでなく、今だけでない人生の意味を気づかせてくれるのが、自然であり、その根底に流れる調和する心であり、それを紡ぐ人たちの生き方そのものです。心から感謝の思いでいっぱいです。有難うございます。

## そのほか スペシャル アドバイザーの ご紹介



上遠 恵子氏

エッセイスト /  
レイチェル・カーソン日本協会 会長



国井 雅比古氏

NPO 法人 日本トレッキング協会 会長 /  
元NHK アナウンサー



岩瀬 直樹氏

軽井沢風越学園 校長・園長

「幸せな子ども時代を過ごす」。学校も地域も社会もそんな場でありたいと強く願います。しかし、当事者の子どもだけではどうにもならない。大人であるぼくたちの責任であり、知恵と行動とあそび心が必要です。どんな経験をするのが幸せにつながるのか。子ども自身が、くらし、あそび、学びのつくり手になるには?アウトドアにはつくり手を育む可能性が広がっている。そこに一緒にいるぼくら大人はどうあるといいのだろう。「人も自然もいりとりどりすこやかな社会」という情景を見るために、JOLAを通じて、ぼくも一緒に考え、行動し続けていきたいと思っています。



二宮 かおる氏

NPO 法人 日本で最も美しい村  
連合 副会長

私は NPO 法人「日本で最も美しい村連合」で副会長をしています。小さくても魅力あるまちづくりをおこなっている自治体の集まりです。この連合の加盟町村、北海道美瑛町でクロスカントリースキーと出会いました。見渡す限りの雪の丘を歩きおした時間は筆舌に尽くしがたい爽快なものでした。加盟町村はどれも美しい自然に恵まれ、野外遊びにうってつけの場所です。しかし、意外なことにそこに住んでいる方々には当たり前すぎて宝が宝に見えないようです。このたびファイナリストになられたアウトドアリーダーズの皆様はそのような宝を発掘し、多くの人に感動と楽しみの機会を作り出してこられた方々です。ご本人が経験された喜びを熱心にお伝えになった成果だと思います。心からの敬意を表します。ますますのご活躍を期待します。



佐藤 初雄氏

NPO 法人 自然体験活動推進  
協議会 代表理事



星野 敏男氏

明治大学経営学部 教授 /  
日本野外教育学会 評議員 議長



速水 亨氏

速水林業 代表 / 株式会社森林  
再生システム 代表取締役 / FSC  
ジャパン 副代表



三浦 雄一郎氏

プロスキーヤー /  
冒険家

# ルーブリック

Rubric

JOLAでは、能力評価に使用される「ルーブリック評価」を採用し、審査を行っています。4つの評価基準を決め、さらに細分化し、評価項目を作成し、評価項目を熟達度で分け、評価表を作成しています。(以下 JOLA ルーブリック)

応募者は JOLA ルーブリックをもとにエントリーシートを記入します。その後、応募者のエントリーシートを複数の委員で評価し、書類選考を進めます。JOLA ルーブリックによって情報が共有されて、応募者へのフィードバックも行えるので、応募者の今後のスキルアップにつながります。日本におけるアウトドアでの人づくりの基準になるよう、毎年改訂を行い、進化させていきます。

## 4つの評価基準

1

### 未来につながる人づくり

直接体験&体験からの学び・  
アウトドアフィールドの活用・継続性

2

### 人づくりの独自性

考え方・哲学・  
キャラクター・実践方法

3

### 社会性

コラボレーション・発信・  
社会への貢献

4

### 人づくりの技

ソフトスキル・ハードスキル・資料(道具)の  
オリジナリティ・場や資源の演出

## 3つの特徴

1

### アウトドアでの 人づくりの評価基準

幅広いアウトドアでの人づくりを  
評価する基準です。

2

### 応募者の ふりかえりにも活用

希望者には評価のフィードバックを行っており、  
各自のふりかえりにも活用してもらえます。

3

### 自身の能力を可視化

主観になりがちな「アウトドアでの人づくりの  
評価」が JOLA ルーブリックによる採点で客観  
的に可視化・共有化されます。

# JOLA2022総括 ～選考にあたって～

Message from the selection committee

2年ぶりとなったアワードは、北海道から沖縄まで、全国から60名のエントリーがありました。

下記の流れで審査及び最終選考を行いました。

## 一次審査

1

1名のエントリーに対して、運営委員(一部大賞受賞者)から3名を選出し、JOLAルーブリックの各項目について5点満点で審査を行いました。

2

運営委員会で、3名の審査得点の合計点170点以上8名、特色のあるエントリー4名の計12名を選出しました。

3

11月23日現在で30歳以下のエントリーのうち、上位3名を選出しました。



大賞

### 木名瀬 裕 Hiroshi Kinase

株式会社今治・夢スポーツ ヒューマンディベロップメントグループ長 / 『しまなみ野外学校』エディタースタッフプロデューサー



特別賞

### 森 和成 Kazunari Mori

株式会社ライジング・フィールド 代表取締役 / 株式会社プロジェクトアドベンチャージャパン 取締役 営業統括



特別賞

### 森重 裕二 Yuji Morishige

子どもたちにライフジャケットを1代表 / 庵治石細目 松原等石材店 3代目



U30賞

### 井上 恵里 Eri Inoue

公益財団法人社会教育協会ひの社会教育センター / ひの自然学校 担当ディレクター

## 最終選考

1

ノミネート3名のうち1名をU30賞として選出しました。

2

ノミネート12名のうち、8名を優秀賞として選出しました。

3

優秀賞の中から、大賞1名、特別賞2名を選出しました。

中学時代に徒歩で日本縦断、18歳で海外、北海道でアウトドアガイド資格制度の立ち上げから整備・運用に携わり、現在は愛媛県のサッカー事業を中心とする会社で野外体験教育に関わる。地域の自然環境や資源を活かし、自身の彩り豊かな経験を通して作り上げた活動は、多くの人を引きつける魅力的なものである。

社会人教育の現場で構築してきた独自の理論が、自然体験事業、キャンプ場運営事業にとどまらない大きな運動体として構築されている。思考の筋道がしっかりしていて、行動に矛盾がない。ロジックとエモーションの両方を兼ね備えている。

「子どもたちにライフジャケットを」の合言葉のもと、抜群の発信力と行動力で水辺活動実施の際のライフジャケット着用の運動を実践している。一般的には安全活動を届けたいという考え方が多いが、「命を守ること」という考え方は覚悟と責任感、そして重圧が相当あることが想像できる。

歴史ある団体において、入職4年目にして体験活動や人づくりの理念を自分の中にしっかりと持ち、混沌とした社会をしっかりと生き抜いていける人を育てたいという強い思いで、子どもたちや保護者、リーダーに関わっている。

# 選考委員からのメッセージ

Message from the selection committee

竹内 洋岳 氏

選考委員長  
プロ登山家 / 立正大学 客員教授 / 株式会社ハニーコミュニケーションズ所属



JOLA は新たな挑戦に踏み出します。  
自然の中で探求を続ける私たちアウトドアリーダーは、古<sup>いにしえ</sup>に未踏の地に踏み込んでいった探検家の末裔です。探検の歴史は紛争、災害、社会変化などに翻弄されてきた歴史でもあり、彼らはその中でも創意工夫により挑戦を続け、その情熱を私たちに受け渡してくれました。いま私たちの前には世界規模の変化により、まったく新しい未踏の地が現れたのです。いまこそ人類の知恵と叡智である野外活動の術を進むべき未来を指し示すコンパスとし、JOLA は、未踏の地に ReSTART します。

指出 一正 氏

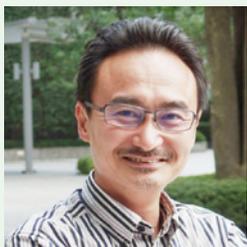
選考委員  
株式会社ソトコ・プラネット 代表取締役 / 「ソトコ」編集長



皆さん受賞おめでとうございます。人づくりに励む多くの方が、一定の思考にとらわれず、アウトドア業界から越境する姿が見えました。越境は、全く違うもの同士が、同じ場所に立つ機会をつくり、水平方向ではない、斜めの関係性を生みます。その関係性は、社会に貢献し、社会を変える可能性に溢れていました。これからの未来、子どもだけではなく、大人が自然と対峙できるよう育てることも大事です。もともと、女性のエントリー者を増やしたいですね。JOLA と共にある、ソーシャルアウトドア (SOLA) の動きも楽しみです、大いに期待したいと思います。

曽根原 久司 氏

選考委員  
NPO法人えがおつなげて 代表理事



この度の受賞、おめでとうございます。受賞されたみなさんの活動は、意欲的で独自性がありました。そのため、とても輝いて見えました。そのみなさんの活動の輝きが、原動力となり発展されたのだと思います。それがひいては、人材育成の側面や、さらに地域などへの波及効果といった社会的な側面も含め、広がっていったのだと思います。これからも、がんばってください。今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。

高野 孝子 氏

選考委員  
NPO法人エコプラス 代表理事 / 早稲田大学 教授 / 立教大学 客員教授



「評価するのではなく、光をあてるのだと思います」という竹内さんの言葉から選考会は始まりました。コロナ禍の中でもフィールドの特色を生かして体験活動を組み立て、哲学と思いを持って人づくりに取り組んでおられる方々が集まりました。ひたむきに活動されてきた実績は等しく尊く、どなたも輝いておられると思いました。人と人が自由に関わったり、対話すらできないこの2年間で、直接体験の大切さが改めて認識されました。JOLA に関わる全ての皆様には、どんな時にもその大切な場をしっかりと守り、育てていていただきたいと願います。

成田 裕 氏

選考委員  
NPO法人ガイア自然学校 代表 / 一般社団法人日本アウトドアネットワーク 代表理事



「選考」だなんて恐れ多い…。そう思い続けてなかなか考えがまとまりませんでした。が、「光をあてる」という一言に勇気をいただきました。各地域で、目の前の子どもたちへの教育活動や地域の自然を守るといった、本当に地道で真面目な活動をされている方々に「光をあてたい」と思いました。そうした方々がJOLAを受賞することで、受賞された方々だけでなく、近い活動をしている人たちにも勇気づけられる結果となると信じています。なぜなら私自身も、受賞された方々の活躍で勇気をたくさんもらったからです。これからもJOLAが「勇気」の広がる受賞となりますように。

野口 和行 氏

選考委員  
慶應義塾大学 教授



2年ぶりのJOLAファイナリストを皆様で紹介できることを大変嬉しく思っています。運営委員のときから全ての審査シートを読ませていただいて思うこと、良いリーダーにはストーリーがある、ということです。活動を始めるきっかけ、自然やひとに対する思い、周りを巻き込む力、そしてアウトドア活動を通じてより良い社会づくりに貢献しようという強い決意です。肩書も、実践内容も、地域もバラエティ豊かなファイナリストですが、そこに共通しているのは人々の共感を生むストーリーです。ぜひそのストーリーを味わっていただきたいと思っています。

2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
大賞  
Grand Award

PROFILE



木名瀬 裕  
Hiroshi Kinase

しまなみ(今治市)から“生きる”をテーマにする野外活動家。海で川で山で若い世代の遺伝子のスイッチを入れまくる野外活動×被災地活動を行う。旅人→猟師→リバーガイド→ガイド会社経営→野外教育を通じた人材育成→FC今治(Jリーグクラブ)初の野外教育『しまなみ野外学校』にて活動。

株式会社今治・夢スポーツ  
ヒューマンディベロップメントグループ長  
『しまなみ野外学校』エディケーションプロデューサー  
<https://note.com/shimanami>



【上段】7日目の無人島でのパカンス【下段(左から)】無人島に無事にたどりつく/一人で越えなければ仲間と越える/抜け出すしか無い状況

# “生きる”を テーマにする 野外活動家

「しまなみ野外学校」は、2016年FC今治を運営する株式会社今治・夢スポーツの教育部門として始まりました。仲間と力を合わせ困難を乗り越えた時の感動や、若者たちの遺伝子にスイッチを入れるチャンスを増やしたいという思いを大切にしています。静かな山中で、ふと見上げる星空が感動を与えてくれて、寒かったことを一瞬でも忘れさせ

てくれる存在がリアルな世界に有るってことを知った子供たちの横顔に携われた時間。台風を前に、「進むか停滞するか」を幾度となく地図に線を引き直す中で、「僕たちの道」を信じて進む決意に、今を生きる同志だと確信した時間。お腹が痛くて歩を進めることが出来ない仲間に、“休んで欲しい”と精一杯考えて伝え、自分達に許された一分一秒を共

有しようと決断する仲間の優しさに出会えた時間。どれをとっても、一人一人の人生の今を大切にしている彼らから教わることばかり。自然環境と言う素材に立つことで、一人一人の内から生まれてくる“自らを育む力”を大切に、瀬戸内の四季折々の環境を借りて、ご先祖さまから引き継いだ遺伝子に再びスイッチオン。

2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
特別賞  
Special Award

PROFILE



森 和成

Kazunari Mori

「和を成し 人・組織の可能性を切り拓く」がパーソナルミッション。元アクセンチュアディレクター。アクティブラーニングのアプローチを強みとした企業・法人向けの人材開発・組織開発を20年以上手がけている。2014年からは「子供たちの生きる力を高める」ことを目的とした「ライジング・フィールド (Rising Field)」を立上げ、子供たちや家族に焦点を当てた体験学習の場づくりにも注力している。

株式会社ライジング・フィールド 代表取締役

<https://www.rising-field.com>

株式会社プロジェクトアドベンチャージャパン 取締役営業統括

<https://www.pajapan.com>

## 和を成し 人・組織の 可能性を切り拓く

長野県軽井沢町の「ライジング・フィールド 軽井沢」は都内からは新幹線で1時間。軽井沢駅から車で10分かかる距離でありながら、上信越高原国立公園内という大自然の魅力溢れた空間を拠点に活動を展開しています。ライジング・フィールドのミッション (目的) は、自然体験活動を通じ「子供たちの生きる力を高める」「家族の絆を深める」「人・組織の可能性を切り拓く」であり、この目的のためにあらゆる手段を尽くしています。ビジョンは、「あの時の、あの体験が、今の自分の生きる糧になっている!」子供たちが大人になった時そう振り返ってもらえる未来の大人たちで社会を埋め尽くす!です。楽しめる場・機会づくりは大切ではありますが、それが目的ではなく、極論を言えば、「面白くとも何ともなかった!」でも5年後、10年後に振り返った時に、「あの時のあの体験があったから、今の自分があるんだ!」 そう思ってもらえる体験学習機会を創り出すことに全力を尽くしています。これは、子供たちだけでなく、保護者の皆様、更には、企業研修の場・機会づくりに於いても同様です。Rising = 上昇・成長する Field = 場・機会 を創りたくて立ち上げたのが、Rising Field ですから。そのために、私自身も、過去の成功体験や、固定観念に囚われず、自らがブレイクスルーし続け、ありとあらゆる手段を尽くす。そんな活動をこの先もライフワークとして続けていきます。



左から【上段】家族の絆を深めるファミリーアドベンチャー【中段】毎年恒例軽井沢サバイバル・キャンプ / 透明度高い小川を沢登り【下段】スタッフ手作りの場内各施設 / オンライン開催用体験学習プログラムも開発

左から【上段】プールでライフジャケット体験教室を実施 / 大人向け講演では規格についても解説【下段】ライフジャケットは正しく着けることがポイント / また下のヒモはしっかりと！と解説中 / イベントではバンドでライフジャケットのことをアピール！

2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
特別賞  
Special Award

PROFILE



森重 裕二  
Yuji Morishige

学生時代に、野外教育、環境教育を学ぶ。卒業後は、ヒッチハイカー、フリースタイルカヤッカーを経て小学校教諭に。2007年より「子どもたちにライフジャケットを！」の活動をスタート。“ライフジャケットサント”として、日々「ライフジャケット」についてSNS等で発信を続けている。2019年春に約20年続けた小学校教諭を退職し、現在は「庵治石細目 松原等石材店」3代目として修行中。

子どもたちにライフジャケットを！代表

<http://lifejacket-santa.com>

庵治石細目 松原等石材店 3代目

<http://ajistone-hitoshi.com>

この活動を始めたのは、小学校教諭だった2007年の夏。勤務校の水辺の行事のために、「ライフジャケット」の重要性を伝え、やっと人数分を揃えることができ、ホッとしていた矢先…。同じ市内の小学生2名が、市主催の行事で溺れて亡くなってしまふ…という事故が起こってしまいました。新聞でそのことを知った時に、「もう少し大きな声で『ライフジャケット』



思いはただ1つ…

のことを伝えていけば…」と泣き崩れたことをよく覚えています。その事故から、ボクは腹をくくりました。とにかく伝えていくってこと。それ以来、「ライフジャケット」が水辺のアタリマエになることを目指して発信を続けています。水辺の悲しい事故のほとんどは「ライフジャケット」を着けることで防ぐことができます。守ることができる命があるのです。

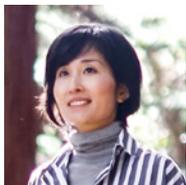
子どもたちの命を守ること。

活動は、SNS等での日々の発信、子どもたちへの安全教室、大人への講演など、できることをとことんやっています。香川県では、地元企業から香川県に寄贈された「ライフジャケット」によって県が「ライフジャケット・レンタルステーション」を開設してくださっていて、その動きに全面的に協力させていただいています。今後は、自治体による「ライフジャケッ

トレンタルステーション」を全国に広げることが使命だと思っています。このアワードへの挑戦が、1人でも多くの方に「ライフジャケット」についてのメッセージを伝えるきっかけになることを心から願っています。これからも発信を続けます。どうか、みなさんも一緒にメッセージを広げていただけると嬉しいです。

2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
優秀賞  
Excellence Award

PROFILE



岡本 麻友子  
Mayuko Okamoto

奈良県生まれ。私立保育園で5年務めた後、美容や癒しの業界で、あらゆる女性の悩みに寄り添う仕事に就く。2010年「森のようちえんウィズ・ナチュラ」開園を機に、未就園児親子向けの子育て支援事業やコミュニティデカフェやマルシェを運営しながら、地域と繋がり孤育をなくすコミュニティを目指している。NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事。1児の母。

森のようちえんウィズ・ナチュラ 代表  
<http://www.withnatura.com>  
合同会社 SOULS CEO  
<https://souls-llc.jp>

## 幸せな大人の姿こそ最高の教育！

奈良の豊かな自然環境の中で、子どもたちひとりひとりが持つ無限の可能性の芽が出るのを信じて見守りながら、関わる大人たちも共に育つ「共育の場」として、2010年に活動をスタートさせました。親やスタッフは子どもにとって一番影響力のある「環境」の一つです。子どもたちの育ちのために環境を整えること、それが大人の役割でもあります。ただ自然で遊ばせるだけではないのです。まずは、その「環境である大人」を整えること。大人が自分らしく生きること。どんな保育をするかより、環境である大人の私たちの在り方や自分がどう生きていくか、それを考えることが何よりも大事だと思っています。スタッフや保護者の壁を取っ払い、人と人として心を通わせあう本音のコミュニティーの中で、自然の力を借りながら、大人ひとりひとりが「自然」に戻っていく…。子どもたちはそんな大人の背中を見ながら、多様な価値観を知り、コミュニケーション能力や自然の摂理などを体得してゆきます。自然の中での生活体験を重ねながら、地域の方々と連携し、日本の原風景の中に子どもたちが走り回る姿を取り戻していきたいと思っています。地域の自然・人・伝統行事など全てが子どもたちの感性を育む豊かな保育資源です。子どもたちが大人になったとき、思い出される記憶の中にその風景が浮かび、人間としての確かな土台になっていると信じ、地域や国、世界、地球に生かされている命の本質としての感性を育んでいきたいと思っています。



【左】大人も全力の運動会のかけっこ競走 【右上】遊具は子どもたちのアイデアで設置したもの 【右下】地域の行事で見た弓矢を早速手作り

【左】雪には無限の想像力と創造性を育む魅力があります 【右上】滝登りは自然・仲間・自分を感じる最高のチャレンジの一つ 【右下】大きな馬に自分の意思をしっかりと伝えてチャレンジするカウボーイキャンプ



2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
優秀賞  
Excellence Award

PROFILE



塚原 俊也  
Toshiya Tsukahara

2004年〜くりこま高原自然学校に参画。野外教育やエコツーリズム事業、循環型の暮らしを実践中。2008年岩手・宮城内陸地震で被災。改めて野外教育の役割や必要性の認識を深める。その後各地の災害支援に参加。2017年〜林業など野外の仕事や循環型の暮らしと教育を結び付ける OWLS 開業。未来のために野外教育や災害教育の普及、持続可能な地域づくりに邁進中。

くりこま高原自然学校 校長  
<http://kurikomans.com>

OWLS(Outdoor Works & Lifestyle) 代表

## 「刃火歩平穂育」と 「かきくけこコミットメント」で 「冒険智力」を育みたい

私は野外教育（冒険教育・環境教育）で育まれる知恵や能力を「冒険智力」（Adventure intelligence= AI）と名付けました。これは来たるAI（人口知能）社会などの未来を生きるための私なりの「生きる力」の解釈です。便利な道具やシステムと上手に付き合いながら、自分らしく、他者と協力しながら社会課題を解決し、健康で平和な暮らしや社会を実現していく知恵や能力です。

「冒険智力」を育む要素を「<sup>ほひつへいほいく</sup>刃火歩平穂育」というスローガンにしました。仲間と共に自然の中で刃物や火を使いこなし、たくさん歩いて遊んで、ご飯をおいしく食べる。そんな人が実り豊かで平和な暮らしを創っていくと信じます。

そして、安心安全で主体的な学びや育ちの場を支える人として大切にしたい5つの在り方・関わり方の頭文字をとって「かきくけこコミットメント」としました。

①関心を持って見守る②共感的に関わる③クリエイティブに関わる④経験の場を用意する⑤肯定的に関わるというものです。以上のことをベースに多様な人々が自発的にチャレンジ（成功も失敗も）しながら成長していける野外教育の「場」づくりを続けていきます。



2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
優秀賞  
Excellence Award

PROFILE



星野 諭  
Satoru Hoshino

プレイングーカー/一級建築士/こども環境コーディネーター。1978年新潟生まれの野生児。高校から子どものボランティア活動を行い、2001年の大学時代にNPO 団体設立。子どもの居場所づくりや地域イベント、環境共生デザインやキャンプ、廃材あそび場やフリースクールなどを実施中。2008年に移動式あそび場を創造し、大都市部や里山、被災地など全国で活動を展開している。

移動式あそび場全国ネットワーク  
<https://mpn-japan.com>  
つむぎやさん 代表  
<https://www.tumugiyasan.com>

## すべての答えは、自然と子どもにある!

内なる自然と外なる自然をつむぎ、感じて動く=感動を創造していきます。

### ①移動式あそび場 ~身近な外遊び & 多世代交流の場~

プレーカー(車)に様々な素材や道具、玩具や遊具を搭載し、放課後や週末などに、道や駐車場、空地や広場、森も里などをあそび場や多世代交流の場に変化させ、「いつでも、どこでも、あそび場」にする活動をしている。2021年には、移動式あそび場全国ネットワークを発足し、10年間で100台の移動式あそび場を創出するために運動している。

### ②里山フリースクール「あそびの楽校」~大自然が校舎~

電気も、ガスも、水道もない山奥で、遊ぶ×食べる×作るをテーマに、大自然を全身で感じるがっこうを開催。おとなのやらせたいより「子どものやりたい」を大切に、探究心と冒険心を育てている。

### ③子ども・若者のキャンプ~自然の命と里山の知恵を体感~

山や川、海や島の大自然と衣食住遊の暮らしをかけ算し、「私たちは地球に住んでいる」をコンセプトに、全国各地で実施している。地域のおじいちゃんおばあちゃんの里山の知恵や技も次世代に伝承している。

### ④防災サバイバルワークショップ~自然と身近なモノが大変身~

3.11震災復興支援活動や各地の遺族との交流や体験談、実体験から、「命を本気で守る防災」を開始。全国各地で講演や研修、防災イベント・WSを実施している。

2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
優秀賞  
Excellence Award

PROFILE



丸谷 由  
Yu Maruya

1980年、東京都生まれ。大学より沖縄に渡り、大学では環境教育、大学院では社会教育を専攻。地域社会における教育の成り立ちを研究する。2000年に「ネコのわくわく自然教室」を任意団体として立ち上げ、その後、団体ごと国際自然大学グループに加わり、現在まで一貫して子ども達の野外教育の最前線で活動している。著書：やんばるの生き物図鑑(2004)、軽石のふしぎ図鑑(2021)

NPO法人国際自然大学校沖縄校 マネージャー  
ネコのわくわく自然教室 代表  
<http://www.neco-hp.com>

## 子ども、自然、暮らし、教育をつなげる体験プログラム職人

かつてあった育ちの要素を、新しい知見と技術を入れて再構築。沖縄本島の中城村を拠点に、主に沖縄県内の子も達、親子を対象とした体験の場づくりを続け22年目。温暖で市街地と自然の距離が近い沖縄のフィールドで年間を通じて乳幼児から中高生、親子までが参加できる体験プログラムを開催しています。体験の幅は広く、冬の海辺で野宿をしたり、鶏を自分で捌いたりというワイルドな冒険教育から、地層や火山、生物を専門的に学ぶ自然科学の講座、乳幼児から親子で参加できる森のようちえんまで、「沖縄の自然文化」と「体験を通した育ち」を大切にしています。活動理念は「かつてあった育ちの要素を、新しい知見と技術を入れて再構築すること。子どもが大人となっていく過程で重要な要素となるのが、多様な人や自然や地域社会との関わり合いです。その関わり合いの幅や深さが成長の伸び代を広げてくれます。しかし、時代の移り変わりと共に、自然や他者との関わり方、地域社会のあり方は変わっていきます。また科学技術や社会問題への知見は常に新しく更新されていきます。薄れてしまったものを再生させつつ、時とともに必要となってくる新たな知識や経験を得る場をつくること。自然体験活動を土台に、ローテクとハイテクを組み合わせつつ、子どもが育つ環境構築へアプローチすることを活動の主軸としています。



[左] 中城村の海、生活圏内にこうした豊かな海が広がる [右上] 漂着から1ヶ月で軽石のふしぎ図鑑を専門家と発行、社会問題を科学的に伝える活動へすぐに展開 [右下] 幼児から小中高生、大学生までの異年齢での活動が中心



2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
U 30 賞  
Under 30 Award

PROFILE



井上 恵里

Eri Inoue

1996年東京生まれ。教員を目指していた学生時代に自然体験活動と出会い、この魅力にハマりそのまま指導者の道へ。現在「森のようちえん」活動を中心に、小学生～高校生までの子ども会、サマーキャンプやスキーキャンプの企画・運営・指導を担当。年間のべ1,500人の子どもやボランティアと「忘れられない思い出」を創るべく邁進中。最近クライミングやスキーなど趣味もアウトドアにのめりこみ中…

公益財団法人社会教育協会ひの社会教育センター  
ひの自然学校 担当ディレクター  
<https://hino-shakyo.or.jp>

## 50年続く未来への種まき なんでも楽しめる豊かな心を

0歳児～90歳代までが「やりたい」ことを実現させる場所、それがひの社会教育センターです。野外活動部門「ひの自然学校」では自然体験や文化体験活動を通して、今を生き未来を創る子どもたちが豊かに楽しく生きていくためのヒントを得る場を提供しています。キーワードは自己への挑戦や自分への気づき、仲間づくりと心地よさ、自然への愛着と畏敬の念です。子どもたちは日々たくさんの刺激を取り込みながら大人になっていきます。幼児期には森の中で五感をフルに使って気が済むまで遊びつくす体験を、小学期には新しい仲間を作る楽しさや未知の世界に足を踏み出す冒険心や喜びを、多感な中高生期には安心して心を開き次の道へ向かう勇気を蓄える母港のような役割を担いながら活動をしています。ひの自然学校には、常時50人ほどの「リーダー」と呼ぶ大学生や社会人のボランティアがいます。彼らは労力を惜むことなく子どもたちと関わり、子どもの学びの機会を支えています。そのリーダーたちも参加者の保護者や活動先の関係者の人々に愛され、たくさんの学びを得ています。保護者も我が子を旅に出す不安の一步から、徐々に子どもたちと共に子育ての価値観が変化する方も多く、この体験の機会は、関わるあらゆる人々に学びのきっかけを創ってくれます。

## 「体験」が人を育てる その体験の原点が「無人島」にある

電気も水道も建物もない無人島。持ち込む食料は水と米のみ。2007年から毎年夏休みに実施している無人島学校（無人島一週間自給自足生活）には、現在まで述べ1000人以上が参加しています。無人島生活で、子どもたちにサバイバル力やアウトドア技術を身に付けさせたい訳ではありません。目的は人づくりです。何もない過酷な無人島で子どもたちは、自分の役割を見つけ、仲間に「ありがとう」と言われるために、自分ができる事を自ら考え動くようになります。そして普段の生活で「あたりまえ」と感じていたことに「ありがとう」が隠されていることを実感し、自分が生かされていることに気づきます。そんな体験こそが、未来を生きていく子どもたちの「生きる力」になると考えています。自然体験活動で身につく力はいくつもありますが、私が最も重要視するテーマは「自立」です。自分で考え、自分で決めるチカラを身に付けること。コロナ禍で人との距離が広がり、職業や働き方、社会そのものが変化している中で、とても重要なテーマです。人との関わりの中で、何を考え行動していくのか。人間社会の原点であるアウトドアフィールドは、本来の人のあり方を学ばせてくれ、考える力の源泉である「価値観」を育みます。時代によって形を変えながらも、これからも学びの場を提供し続けていきたいと考えています。

2022  
JAPAN OUTDOOR  
LEADERS AWARD  
優秀賞  
Excellence Award

PROFILE



山崎 清治

Seiji Yamasaki

1972年大阪府生まれ。青少年団体職員を経て、2003年にNPO法人生涯学習サポート兵庫を設立。無人島学校やリアカー縦断の旅などさまざまな体験学習プログラムをプロデュース。2017年に、廃止された公設野外教育施設を購入。完全民営で「神戸三田アウトドアビレッジ TEMIL」をリノベーション運営。また、講演講師・研修ファシリテーターとして年間150本以上登壇し続けている。

NPO法人生涯学習サポート兵庫 理事長  
<https://shosapo.jp>  
無人島学校 校長



[左] 無人島の最終日、自給自足生活達成 [右上] 今までタマゴを産んでくれた鶏との別れ [右下] 自分の食料は自分で釣る

# JOLA Finalist 2017

里山の生態系を、  
地域の人々と学びながら守る



**大賞** 広島県山県郡北広島町

**白川 勝信** Katsunobu Shirakawa

北広島町立芸北高原の自然館 主任学芸員

環境を意識した主体的な  
協働による人づくり



**特別賞** 広島県

**河野 宏樹** Hiroki Kono

環境教育事務所 Leaf 代表 /  
NPO法人これからの学びネットワーク 代表理事

職人的な自給自足の暮らしから、  
「生きる技」を伝える



**特別賞** 京都府南丹市美山町

**藤原 誉** Homaru Fujiwara

合同会社田歌舎 代表

「自然と暮らし」の場がもつ  
教育効果を引き出す



**特別賞** 新潟県南魚沼市を含め、地球上各地

**高野 孝子** Takako Takano

NPO 法人エコプラス 代表理事 /  
早稲田大学 教授 / 立教大学 客員教授

海と森をつなぎ、  
体験から本質を学ぶ



**特別賞** 宮城県気仙沼市

**畠山 信** Makoto Hatakeyama

NPO 法人森は海の恋人 副理事長

しまなみ発、みえないものを伝える  
インタープリターを増やす



**優秀賞** 愛媛県今治市

**菊間 彰** Akira Kikuma

一般社団法人をかしや 代表理事

全感覚を開放し、  
「生き活きる知恵」を得る



**優秀賞** 福井県越前市

**田中 謙次** Kenji Tanaka

一般社団法人環境文化研究所 代表理事

大自然の厳しさにチームで向き合い、  
若手を育てる



**優秀賞** 群馬県利根郡みなかみ町

**田中 正人** Masato Tanaka

アドベンチャーリーダー

研究から見た環境教育の重要性と  
棚田での学びの場づくり



**優秀賞** 兵庫県神崎郡市川町

**永菅 裕一** Yuichi Nagasuga

NPO 法人棚田 LOVER'S 理事長

自然の中に身を置く方法を  
ネイチャーファシリテーターとしてサポート



**優秀賞** 東京都渋谷区

**長谷部 雅一** Masakazu Hasebe

アウトドアプロデューサー・ネイチャーイン  
タープリター

# JOLA Finalist 2018

自然体験型のフリースクールで、  
子どもの主体的な学びを支える



**大賞** 沖縄県読谷村

**小倉 宏樹** Hiroki Ogura

NPO 法人よみたん自然学校 代表理事

森のようちえん・オルタナティブスクールを  
主宰しながら、子育て親育ちの仲間を全国に!



**特別賞** 岐阜県多治見市

**浅井 智子** Tomoko Asai

自然育児 森のわらべ多治見園 園長 /  
母子の幸せ応援団〜ひなたぼっこ〜 代表

農村から世界へ。  
自然に暮らすビックマザーを目指して



**特別賞** 熊本県阿蘇郡南阿蘇村

**大津 愛梨** Eri Otsu

O2Farm 共同代表 /  
NPO 法人田舎のヒロインズ 理事長

仲間づくり& 地域連携で支えあい、  
自然に感謝する人づくり



**優秀賞** 沖縄県名護市真喜屋

**小林 政文** Masafumi Kobayashi

ホールアース自然学校沖縄校 /  
がじゅまる自然学校 代表

森づくりの1ターンだからこそ、  
都市と田舎をつなぎたい



**優秀賞** 山梨県上野原市・小菅村・丹波山村

**中田 無双** Musou Nakada

北都留森林組合 参事 / 森林インストラク  
ター / NPO 法人多摩源流こすげ 副代表  
理事

伊豆の自然体験事業  
ビーチグラスを使った環境活動



**優秀賞** 静岡県賀茂郡南伊豆町

**堀 直也** Naoya Hori

エコサーファー 代表 /  
ビーチマネー 事務局長

都市のビオトープから、  
日常的な自然のストーリーを紡ぐ



**優秀賞** 関東

**三森 典彰** Noriaki Mitsumori

株式会社 BiotopGuild 代表取締役 /  
Foresthree 代表 / 東京環境工科専門学校  
非常勤講師

全世代が自然へ。  
みんなで作る「持続する社会」



**優秀賞** 北海道

**吉元 美穂** Miho Yoshimoto

NPO 法人登別自然活動支援組織モモンガ  
くらぶ 事務局長

# JOLA Finalist 2019

森と子どもをつなぎたい  
ちょっと陽気な原始人



**大賞** 岐阜県

**萩原・ナバ・裕作** Yusaku Nava Hagiiwara

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 /  
野外自主保育「森のたんごむし」言い出しっぺ

人が森をつくるのではなく、  
森が人をつくる。



**特別賞** 神奈川県

**宮村 連理** Renri Miyamura

NPO 法人緑のダム北相模 副理事長 /  
東京学芸大学附属小金井中学校 教諭

減災教育を通じた  
自ら考えて行動出来る人作り



**優秀賞** 全国・大阪府

**片山 誠** Makoto Katayama

一般社団法人72 時間サバイバル教育協会  
代表理事 / 株式会社ココロ 代表取締役 /  
ジャパンキッズプロジェクト 発起人

街の中でも感性を豊かに、  
表現する人になろう



**優秀賞** 大阪府

**中根 佳江** Yoshie Nakane

公益社団法人日本ガールスカウト日本連盟  
ガールスカウトトレーナー / 大阪総合保育大  
学 非常勤講師

若手だからこそ、  
全力で未来を創りたい



**U30賞** 北海道・関西

**徳田 真彦** Masahiko Tokuda

大阪体育大学 講師

ふるさとへの想いをつなぐ場に



**特別賞** 広島県

**浦田 愛** Ai Urata

NPO 法人ほしはら山のがっこう 副理事長・  
事務局長

海に学べ、森に学べ！  
ヒトから学べ、自ら学べ！を胸に14年。



**優秀賞** 千葉県

**神保 清司** Kiyoshi Jinbo

NPO 法人千葉自然学校 事業部長 兼 南房  
総市大房岬自然の家 所長 / NPO 法人海に  
学ぶ体験活動協議会 (CNAC) 副代表理事

仲間と共に、指導者養成と  
より良い社会の実現へ



**優秀賞** 関東・山梨県・長野県・静岡県

**原田 順一** Junichi Harada

NPO 法人湘南自然学校 リスクマネジャー /  
SAN ~ Social Active Network of outdoor  
education ~ 副会長

子ども達の能力を信じ、  
一緒に楽しむ



**優秀賞** 長野県

**松場 省吾** Shougo Matsuba

NPO 法人信州まつもと山岳ガイド協会やまた  
み 理事 / やまたみキッズ登山クラブ リーダー

川漁師× SDGs  
日本風土の最高傑作“天然鮎”は語る



**大賞** 岐阜県

**平工 顕太郎** Kentaro Hiraku

結の舟

アウトドアで育む、  
児童養護施設に暮らす子供たちの未来



**特別賞** 東京都・神奈川県・埼玉県・  
千葉県・宮城県・岩手県

**ジェフ・ジェンセン** Jeff Jensen

NPO 法人みらいの森

野外体験活動から  
危機意識と人間育成を学ぶ



**優秀賞** 北海道

**新野 和也** Kazuya Niino

認定 NPO 法人どころ野外学校

未来の「グリーンリーダー」を  
日本から世界へ！



**優秀賞** 兵庫県・大阪府

**バハラム イナル** Bahram Enanloo

NPO 法人 Peace & Nature

“ちょっとチャレンジ！”  
を応援したい



**U30賞** 福井県

**細川 和朗** Kazuro Hosokawa

NPO 法人自然体験共生センター 理事長 /  
福井県キャンパ協会 理事

# JOLA Finalist 2020

「つながり」で広げる  
未来の可能性



**特別賞** 東京都

**稲松 謙太郎** Kentaro Inamatsu

株式会社ノッツ/SAN ~ Social Active Network  
of outdoor education ~ 会長

後ろを向きながら前に走っている人



**優秀賞** 兵庫県

**相良 育弥** Ikuya Sagara

淡河かやぶき屋根保存会 「くさかんむり」

質の高い野外活動指導の  
できる人材をつくる



**優秀賞** 神奈川県

**西島 大祐** Daisuke Nishijima

鎌倉女子大学准教授 /  
NPO 法人東京都キャンパ協会 理事長

笑顔のバトンタッチは  
ずっと繋がっている



**優秀賞** 千葉県

**堀 由美恵** Yumie Hori

隔けたら海へ 代表 / ボダーボード  
ヨガインストラクター・講師

# あなたとできること

JOIN US

生き方を学び、  
ローカルに学び、  
みんなと学ぶ。  
世代を超え、立場を超え、  
枠組みを超えて  
みんなが広く緩やかに  
つながれるJOLAに  
ぜひお集まりください。

JOLAは、これまでスポンサー・サポーターの皆様からのご協賛で運営している任意団体で、運営委員はボランティアで活動をしています。

Re:Startをするにあたり、これまでのアワードを通じた表彰だけでなく、ファイナリストの知恵や経験をみんなの学びに変え、各地で活動する素晴らしい仲間とつながり、それぞれが抱える課題をみんなの課題として知恵を出し合い、より良い地域活動になるうねりを作りたいと考えています。

そのために、今までよりも多くのみなさまとのつながりとご支援が必要です。そして、互いに支援し合うパートナーのような存在となり、より長く深い付き合いをしていくことが大切だと考えています。ご賛同いただけたらぜひ「一緒に」未来を描いていきましょう。

## 法人の方へ

法人のみなさまにご参加いただけるさまざまな「人づくり・地域づくり」のサポート方法があります。ご協賛や会員の課題解決など、法人様の社会貢献活動につながります。一方、私たちが法人様をお手伝いできることもたくさんあります。フリーペーパーでのPR、みんなの知恵袋での課題解決、活動応援商品・サービスのご提供、オリジナル研修プログラムのご提供など、「人づくり・地域づくり」のパートナーとして、ぜひご相談ください。

## 個人の方へ

「自分の活動もソーシャルアウトドアかな？」  
「面白い人、知ってる！」  
「アウトドア好きだし、興味ある！」  
JOLAに共感くださるみなさんからよくいただく言葉です。あなたにできることが、たくさんあります。ぜひ、私たちと一緒に楽しくためになる「人づくり・地域づくり」を盛り上げませんか？

ご興味を持っていただけたらお気軽に裏面記載の事務局までお問い合わせください。

JOLA/SOLA  
登録フォーム

JOLA/SOLAでは年間を通じて不定期ですがさまざまなプロジェクトがございます。それらのイベント情報などを送って頂きたい方は下記のフォームにご登録くださいませ。不定期ではありますが随時インフォメーションさせていただきます。



## JOLA 運営委員会の ご紹介

GROUP INTRODUCTION

## VISION

私たちの描く未来

人も自然も  
いろとりどりで  
すこやかな社会をつくり  
次世代へ渡す。

## MISSION

私たちの取り組み

未来のための  
人づくりに取り組む  
ソーシャル  
アウトドアリーダーに  
光を当てる。

## 7VALUES

私たちが大切にしたいこと

1. 今を大切に、未来を見据える
2. リアルな体験や場を大切にする
3. 自分の個性を大事にする
4. 他人との違いを楽しむ
5. 互いを応援しあう
6. 自らの「アウトドア」に一步踏み出す
7. 学びを可視化し、みんなと共有する

### 運営委員長

山田俊行 (トヨタ白川郷自然学校 学校長)

### 運営委員

加納 麻紀子 (NPO 法人くまの木里の暮らし 事務局長) /  
佐藤 繁一 (NPO 法人国際自然大学校 統括本部長) /  
砂山 真一 (一般財団法人ポジティブアースネイチャーズ  
スクール 代表理事) / 高瀬 宏樹 (国立曽爾青少年自然の  
家 企画指導専門職) / 中澤 朋代 (松本大学総合経営  
学部 准教授 / NPO 法人日本エコツーリズムセンター 共同  
代表理事) / 野口 和行 (慶應義塾大学 教授) / 原田 順  
一 (NPO 法人湘南自然学校 リスクマネージャー / SAN ~  
Social Active Network of outdoor education ~ 副会長)  
/ 増田 直広 (鶴見大学短期大学部 講師) / 山路 歩 (NPO  
法人体験学習研究会 代表理事 / 日能研 調査開発室 キヤ  
ンプ担当) / 山田 亮 (北海道教育大学岩見沢校 アウト  
ドア・ライフコース 准教授)

### 事務局

大久保 徹 (株式会社ポブラ社) / 土屋 文乃 (NPO 法  
人自然体験活動推進協議会) / 原田 順一 ※運営委員兼  
務 / 和田 徳之 (株式会社和大地 代表取締役)



## JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD

### 【名称】

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2022

### 【主催】

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会

### 【パートナー】



### 【サポーター】

ARC'TERYX、石井スポーツ、カシオ計算機株式会社、ココヘリ、SALOMON、SATOMACHI、秀岳荘、野良道具製作所、パタゴニア日本支社、株式会社前垣、益田工房、mont-bell、UTSunjinc

### 【募集期間】

2021年9月23日(木・祝)～11月23日(火・祝)

### 【表彰式】

2022年3月15日(火) オンライン開催

### 【スペシャルアドバイザー】

岩瀬 直樹 (軽井沢風越学園 校長・園長)、上遠 恵子 (エッセイスト/レイチェル・カーソン日本協会 会長)、国井 雅比古 (NPO 法人日本トレッキング協会 会長 / 元 NHK アナウンサー)、佐藤 初雄 (NPO 法人自然体験活動推進協議会 代表理事)、澁澤 寿一 (NPO 法人共存の森ネットワーク 理事長)、速水 亨 (速水林業 代表 / 株式会社森林再生システム 代表取締役 / FSC ジャパン副代表)、星野 敏男 (明治大学経営学部 教授 / 日本野外教育学会評議員 議長)、二宮 かおる (NPO 法人日本で最も美しい村連合 副会長)、三浦 雄一郎 (プロスキーヤー / 冒険家)

### 【選考委員長】

竹内洋岳 (プロ登山家 / 立正大学 客員教授 / 株式会社ハニーコミュニケーションズ所属)

### 【選考委員】

指出 一正 (株式会社ソトコト・ブランネット 代表取締役 / 『ソトコト』編集長)、曾根原 久司 (NPO 法人えがおつなげて 代表理事)、高野 孝子 (NPO 法人エコプラス 代表理事 / 早稲田大学 教授 / 立教大学 客員教授)、成田 裕 (NPO 法人ガイア自然学校 代表 / 一般社団法人日本アウトドアネットワーク 代表理事)、野口 和行 (慶應義塾大学 教授)



ジャパン アウトドア リーダーズ アワード

## CONTACT

お問合せ先

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会 事務局

ADDRESS 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 NPO 法人自然体験活動推進協議会内

MAIL [jola@cone.jp](mailto:jola@cone.jp) TEL 03-6407-8240 WEB <http://jola-award.jp>

